



中央農業高校 校長室だより 特集号

－ 命はぐくむ学びの風景 －

神奈川県立中央農業高等学校 校長 岩崎秀太

第1回 中学生体験入学を開催しました

7月11日（土）、令和8年度第1回中学生体験入学を開催し、中学生・保護者あわせて約200名の皆様にご参加いただきました。暑い中にもかかわらず、多くの皆様にご来校いただき、本校の教育活動に関心を寄せていただきましたことに心より感謝申し上げます。

全体会では、各教室へオンデマンド配信を行い、私からのあいさつに続き、学校紹介、学科紹介、農業クラブ活動の説明を行いました。本校の教育方針や特色を映像でわかりやすくお伝えし、中学生の皆さんに中央農業高校での学校生活をイメージしていただきました。その後は、各学科に分かれて体験・見学を実施しました。

園芸科学科

植物とともに学び、育てる喜びを体験

園芸科学科では、「野菜収穫体験」「造園体験」「フラワーアレンジメント体験」を実施しました。

野菜収穫体験では、本校の農場で実際に栽培されている野菜を収穫し、作物を育てる喜びや収穫する楽しさを体験しました。普段スーパーで目にする野菜が、どのような環境で育てられているのかを知る貴重な機会となりました。

造園体験では、庭づくりや石材の配置など、造園の基礎を体験し、自然と調和した景観づくりについて学びました。

また、フラワーアレンジメント体験では、生花を使って思い思いの作品づくりに挑戦しました。同じ花材を使っても一人ひとり異なる作品が完成し、創造することの楽しさや植物の美しさを実感していました。

畜産科学科

命を育てる畜産教育を体感

畜産科学科では、学科説明に続いて、畜舎の構造や施設設備、家畜の体の仕組み、畜産物の利用について学びました。

牛や豚などの家畜が健康に育つためには、どのような飼育環境が必要なのか、また、安全で安心な牛乳や肉、卵などが私たちの食卓に届くまでに、どのような努力が重ねられているのかを、高校生が分かりやすく説明しました。

参加した中学生は実際に家畜を間近で見学し、その大きさや温もりに驚きながら、「命を育てる」という農業教育の原点に触れていました。本校の畜産教育は、単に飼育技術を学ぶだけではなく、命への感謝や責任感、人としての豊かな心を育てる教育でもあります。

農業総合科

農業総合科では、「カップdeメロンパン」「夏野菜Labo!」「実験「色が変わる不思議」」「中農産野菜のフoccaッチャ」「中農産野菜の活用」「ビタミンCを探せ」の6講座の中から3講座を体験しました。参加した中学生は調理や実験を通して、農業が食生活や科学、健康と深く結び付いていることを楽しみながら学びました。

特に、色の変化を利用した化学実験では、「なぜ色が変わるのだろう」と驚きの声が上がリ、メロンパンやフoccaッチャ作りでは、自分たちで作った食品を前に笑顔があふれていました。



農業は作物を育てるだけではありません。食品加工や栄養、環境、科学など、幅広い分野とつながっています。本校では、こうした総合的な学びを通して、自ら考え、課題を解決する力を育てています。



学校生産物販売・和太鼓部の演奏でお見送り

体験終了後には、希望者を対象に個別進路相談を実施しました。学科の学習内容や学校生活、部活動、資格取得、進路実績、入学者選抜などについて、教職員が一人ひとりの質問に丁寧にお答えしました。

また、本校で生産した新鮮な野菜や卵、人気商品の卵クッキーなどの販売も行いました。多くの方にご購入いただき、



「高校生が作ったとは思えない品質ですね」「ぜひまた購入したいです」といった嬉しいお言葉もいただきました。日頃の実習の成果を地域の皆様にお届けできることも、本校の大きな魅力の一つです。



体験入学の最後は、本校和太鼓部による迫力ある演奏で参加者の皆様をお見送りしました。

力強く響く太鼓の音色は、中央農業高校の活気と伝統を感じさせるものであり、多くの参加者が足を止めて演奏に聴き入っていました。演奏後には大きな拍手が送られ、生徒たちも達成感に満ちた表情を見せていました。

中央農業高校の魅力は、充実した施設や専門的な学びだけではなく、「人」にあると考えています。生徒たちは日頃の学習や実習を通して専門的な知識や技術を身に付けるだけでなく、人を思いやる心や協力する姿勢を自然に育んでいます。当日も、中学生の目線に立って丁寧に説明し、優しく寄り添う姿が数多く見られました。

本校が120年にわたり受け継いできた教育の根底には、「命をはぐくむ」という理念があります。作物や家畜の命を育てることはもちろん、人を育て、地域を育て、未来を育てる学校でありたいと考えています。

今回の体験が、中学生の皆さんにとって進路を考えるきっかけとなり、「中央農業高校で学びたい」という思いにつながれば、これほど嬉しいことはありません。

来春、本校で再び皆様とお会いできる日を、教職員そして生徒一同、心より楽しみにしています。